童心会だより（ホームページ）

令和7年度

〔 自分を創る・人を創る・童心会！ 〕
～ 人を動かせ！脳を動かせ！心を動かせ！自分を創る ～

私たちは本当に長い間、思い返せば1973年（昭和48年）の時代から
「五感を刺激する人間教育」に取り組んできました。
そして五感を刺激することから人間学的な「愛された育ち・だきしめ言葉など」を通して
思いやり（慈悲：すべてのものの喜びや悲しみに寄りそう心）を育み、
心を動かすことの大切さを次のような活動を通して身につけてきました。

〔 五感を刺激する 0歳からの人間教育 〕

見て 倣い　　観せて 学び
聞いて 考え　　聴かせて 習う
触れて 知って　　触って 記憶する
風に香りを嗅ぎ 五味・五色・五感で 四季を味わう

しかし私たちは1970年代には田舎における地方都市でも高度経済成長の落とし子である核家族化が
原因と思われる「気になる親（保護者）・気になる子たちの出現」が話題になりはじめたのです。
荒れた小中学校が茨城県にも出現するようになり、全国でも大きな社会問題になりました。
今考えて見ると、この時代から”子育ての不安・子育ての負担”が重くのしかかっていたように思いました。
この時代からだったように思います。
各地域それぞれに存在していた”社会の教育力”が失い始めたのです。

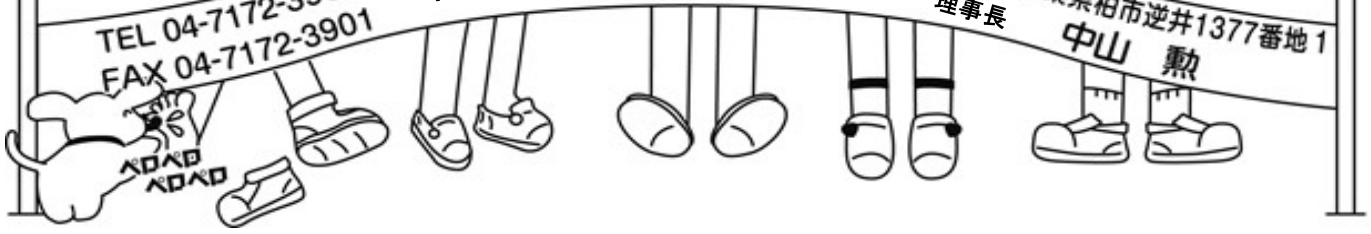
〔 失われた社会の教育力 〕

1. 家庭の教育力
2. ご近所の教育力
3. 子ども社会の教育力
4. 学校の教育力
5. 地域社会の教育力

笑ったかず一番　だっこされたかず一番　やさしくされたかず一番
遊んだかず一番　でかけたかず一番　チャレンジしたかず一番

E-mail doushinkai@doushinkai.jp　URL http://doushinkai.jp

社会福祉法人 童心会
〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 勲
TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901



これらの”失われた社会の教育力”が、さらに1980年代の子育て世代の不安や負担感を
さらに増やすようになり、大きな社会問題になり始めました。
子どもに対する体罰や虐待が多くなったのです。私たちはそれを”三世代にわたる世代間連鎖”と
言っていたのですが、そのような生易しい状況ではありません。
小児精神科医の渡辺久子先生は”世代間伝達”という厳しい言葉を使っていました。

改めて私たち（社福）童心会は、
このような激しい時代の移り変わりの中で保育所の持たされている役割もただ単なる
「乳幼児の保育・幼児教育」だけでない機能を持つべきであると思いました。
そして私たちは今、次のような保育・保健・福祉・医療・教育・食事などの領域の人たちとの
協働（コラボレーション）することが求められてきていると考えました。

改めてふり返って見ますと、私たちの子育ては、歴史的に見ても親や乳母、養育者やご近所の大人たちが
何も分からない言語も持たない乳幼児の世話をすることから始まったような気がします。
しかし2001年、OECDから発表された「保育白書ECEC（Early Childhood Education and Care）」の中で
次のように発表されたのです。

「近年の脳神経科学の研究により、幼い子ども、特に3歳児未満の人生の最初期にある子どもは、
有能な学習者であることが確かとなった。
3歳児未満児とそれより年長の子どもの学習能力を分別するのは、
伝統や大人の都合であり、科学的根拠に基づくものではない」
また続けてOECDは「保育白書ECEC」の中で次のように言っていました。

「Education」を「Care」の前に置いたのは、
子どもが発達し、教育を受ける権利を乳幼児のために優先すべきものとみなしたから、
だから乳幼児期、すなわち学習の基礎ステージが最も重要だとも言っていました。

また童心会だより6月号にも書いたのですが、
『21世紀の証拠に基づく「子ども育て」KKぎょうせい（掛札逸美、他2名著）』
21世紀に発表された研究論文150を含む200の証拠の中でも、私たちが50数年前から
取り組んできた「五感を刺激する0歳からの人間教育」を次のような言葉と方法で紹介していました。

［人間教育の摂理（serve＆return）］
1）生まれた瞬間から子どもの脳と体を育てる科学的な方法を考えながら生きること
2）知識、技術：誕生から死ぬまで、学び、身につけるもの（生涯学習・生涯教育）

以上のように子育ての移り変わりを簡単に述べてきましたが、
私たちの保育は1990年代からの著しい認知神経科学や脳神経科学の進化に伴う
”人間科学”を抜きにして考えることはできなくなりました。
だから私たち（社福）童心会は新しい道を求め始めたのです。
それが「人間学と人間科学に基づく人間教育」の世界になったのです。
それは実学の世界であり、実践の理学を通して「生きるを援け生命を守ること」が
私たちの使命（Our life work）であることを思い知らされました。

ようやく私たち乳幼児の世界に住む人たちも、幼児教育以前に
必要とされていた”3歳児神話”にも終わりをつげ
日本だけでなく世界でもOECD（経済開発協力機構）が2001年に保育白書ECECを発表したのです。
だから私たちはさらにその上を歩む「人間学と人間科学に基づく人間教育」に向かって研究を進め
皆さまの”Well-being　幸せになろうね！幸せになろうよ！”を求め続けていくつもりです。
皆さまご協力下さるようお願いいたします。

今日もまた一日一生を念じながら
すべての仲間たちのWell-being ”幸せになろうね！幸せになろうよ！”と
祈り願い続けていくつもりです。どうぞいつまでもお幸せに!!

令和7年　7月　吉日
社会福祉法人 童心会
理事長　　中山 勲